

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	人事課
課長名	小清水

事業名	消防“夢”コンサート				施策番号	
					I - 1 - (2) - ⑤	
事業概要	消防音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じ、防火・防災意識の高揚を図るとともに、音楽教育の一環として、音楽の素晴らしさや多くの仲間と音楽を創造するチームワークの重要性を伝えることを目的に、市内の小学校(特別支援学校含む)に向向き、コンサートを実施します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長
	0 千円	0 千円			1,050 千円	係長

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	発育期からの防火・防災意識の高揚を図るとともに、音楽教育の一環として、音楽の素晴らしさや多くの仲間と音楽を創造するチームワークの重要性を伝えることを目指します。		成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	アンケートで「非常に良かった」「良かった」と回答した割合	-	100 %	100 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	実施学校を対象にアンケートを実施します。 (最終目標と目標年度) 毎年度100%			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%	遅れ	大変順調

活動計画	学校側の人事異動等を考慮し、新年度に募集通知を出すことで依頼校の増加を図ります。また、やむを得ない公演の中止に対し、振り替え公演等の救済措置を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	年間開催学校数	42 校	50 校	49 校	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	消防音楽隊の他の出演とのバランスから年間50校程度の実施を維持することが適切であり、公演内容を毎年変更する、募集時期をより効果的に変更するなどの工夫により依頼校の確保に努めます。			98.0 %		
				%	遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	依頼校すべての学校で公演を実施し、アンケート結果も良好であったことから、事業は順調であると考えます。子どもたちが「防火・防災」について認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育むことは、将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも重要なことであるため、今後も積極的な取り組みを進めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これ以上のコストを削減する余地はなく、より高い効果を得るため出演に工夫を行っています。また、新しい楽曲・流行曲の演奏を常に心がけ実施しているため、常に新鮮な事業・演出であるものと考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局
		担当課	予防課
		課長名	尾花
事業名	消防士さんといっしょ		
	施策番号 I - 1 - (2) - ⑤		
事業概要	消防職員がゲストティーチャーとして小学校へ出向き、小学校4年生の社会科単元「安全なくらしとまちづくり」の小単元「火事をふせぎ、地震などの災害にそなえる」の授業10時限のうち2時限を担当します。 授業内容は副読本「消防のごと」を中心に119番通報訓練、消火器(訓練用)取扱い訓練、煙を充満させての避難訓練、消防資器材に触れる等の体験重視の授業を行います。また、消防士の実体験を通じて、防火・防災意識の普及や命の大切さを伝えます。		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	目安の金額
	1,250 千円	1,414 千円	課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.15人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 防火・防災のプロである消防職員が「ゲストティーチャー」として小学校に出向き、各小学校の協力を得て、社会科教育の一環として「消防のごと」の授業を行うことにより、児童への防火・防災教育の充実を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「消防士さんといっしょ」対象校の年間実施率 市内すべての小学校(ただし、特別支援学校及び複式学級等を除く)を対象とした年間実施率。将来を担う子どもたちに「防火・防災」について認識を持たせることは、北九州市を「災害に強いまち」とするための基盤として重要なことであるため、実施率100%と設定しました。 (最終目標と目標年度) 実施率100%を維持する。	100 %	100 %	100 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
				100.0 %		
						遅れ
(最終目標と目標年度)				%		

活動計画	授業はもちろんのこと、「スモークマシンを活用した煙体験」、「消火器(訓練用)の取扱い」、「119番通報訓練」、「空気呼吸器、消防用ホース等の資器材の取扱い」といった児童が実際に体験出来るような内容を多く取り入れ、消防局でしか出来ないような授業を展開していきます。 また、講師については様々な体験談を踏まえながら授業を実施しているため、全て消防職員が担当しています。	活動実績	活動結果は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「消防士さんといっしょ」授業アンケートの回答結果 実施学校にアンケート調査を実施し、児童の反応についての問いに「非常に良かった」「良かった」という回答及び「今後もこの授業は継続したいか」との問いに、「希望したい」という回答の集積結果を100%と設定しました。	100 %	100 %	100 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
				100.0 %		
						遅れ
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当事業の対象校の年間実施率及び授業アンケートの回答結果はいずれも目標を達成しており、成果及び活動の状況はいずれも順調であると考えます。 子どもたちが「防火・防災」について認識を持ち、家庭・地域生活の中で実践していく力を育むことは、将来の北九州市を「災害に強いまち」にするためにも重要なことであるため、今後も積極的な取組みを進めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業での使用資器材(スモークマシン等)については、各署2台という少ない数で計画的に使用し、経済的、効率的に実施できました。 また、講師については、本事業が消防職員の体験談を踏まえた授業内容を構成しているため、他の実施主体(委託等)は考えられません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局	
		担当課	救急課	
		課長名	正代	
事業名	「スクール救命士」事業の推進			
	施策番号 I - 1 - (4) - ③			
事業概要	全市民が応急手当ができる安全・安心なまちとなるよう、小学校、中学校、高校と発育段階に合わせた応急手当の講習を実施します。			
	事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	人件費
		591 千円	1,991 千円	目安の金額
				課長 0.13 人 係長 0.50 人 職員 2.65 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	全市民が応急手当ができる安全・安心なまちとなるよう、小学校、中学校、高校と発育段階に合わせた応急手当の講習を実施します。			成果実績	下記の代表的な活動指数のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	小学校の応急手当講習実施率			83 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	最終的には市内全ての小学校での実施を目指します。 (最終目標と目標年度)H27年度100%	24 %	25 %	332.0 %			
	中学校の応急手当講習実施率			83 %	やや遅れ 遅れ	大変順調	
最終的には市内全ての中学校での実施を目指します。 (最終目標と目標年度)H26年度100%	46 %	60 %	138.3 %				

活動計画	講習実施を希望する学校で講習を実施するとともに、未実施校に対し事業の有用性を説明し実施を促します。			活動実績	学校長会会長で本事業の説明を行い、全校に対して本事業の紹介を直接何度も行った結果、H25年度の実績希望数が増加しています。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	講習の実施及び促進			実施	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	講習実施を希望する学校で講習をするとともに、未実施校に対し事業の有用性の説明をし学校を促します。	実施	講習の実施及び促進				
				%	やや遅れ 遅れ	大変順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	目標値をはるかに上回っており、順調に進んでいると考えます。しかしながら、学習指導要領に含まれていない授業時間を確保することは難しく、本事業の推進にあっては、各学校の判断になるため、全校実施には至っていません。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は、可能な限りの短い時間、少ない人件費での実施を行っているため、現状より低いコストで実施することはできません。また、応急手当の普及啓発活動は国の通知により、市が行うこととされており、同様の講習を行う民間組織は本市には存在しません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	救急課
課長名	正代

事業名	救急救命士の資格取得研修				施策番号	
					II - 1 - (2) - ①	
事業概要	救急現場で薬剤投与又は気管挿管ができる救急救命士の養成を行い、各救急隊に配置することにより、救命効果の向上及び、市民サービスの水準を維持します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05人
	17,262 千円	14,055 千円			9,275 千円	係長 0.15人 職員 0.96人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	救命効果の向上を目的に、救急現場で気管挿管又は薬剤投与ができる救急救命士を養成します。気管挿管・薬剤投与は、近年拡大された救急救命士の特定行為のため、それ以前に資格を取得した救急救命士に対する追加研修です。	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	救命効果の向上	-	単年度目標設定なし	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 大変順調
		救急現場で気管挿管又は薬剤投与のできる救急救命士を養成します。今後全救急隊に配置し、高度な救命処置ができるよう養成することを目標としています。 (最終目標と目標年度)			%		
		(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	一般財団法人救急救命九州研修所で行われる薬剤投与追加講習はH25年度で終了します。また、定年退職による救急救命士の減少にも対応していくために、新規救急救命士(H18年以降の救急救命士は救急救命士資格取得段階で薬剤投与の認定を受けている)を計画的に養成していきます。また、気管挿管認定救命士の養成は継続的に実施していきます。	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	薬剤投与を行う認定救命士の養成数	13人	22人	22人 100.0%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
		気管挿管を行う認定救命士の養成数	4人	8人	8人 100.0%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	薬剤投与・気管挿管を行う認定救命士について目標とする人数を養成したため、大変順調と判断します。H25年度で財団法人救急救命九州研修所での薬剤投与追加講習が終了することを考慮し、より多くの認定救命士を養成するため、薬剤投与を行う認定救命士を優先して養成しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	気管挿管認定救命士は他都市より短期間でできる市内の協力病院で行っています。薬剤投与追加講習も市内の研修所で行う等、最も低いコストで行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局
		担当課	救急課
		課長名	正代
事業名	応急手当の普及啓発		
	施策番号 II - 1 - (2) - ①		
事業概要	突然の病気や怪我等により傷病者が発生した場合に、傷病者のそばにいる市民が適切な応急手当を行うことで、傷病者の救命効果は向上します。また、AEDの使用が一般的に認められたことで、さらに市民の応急手当による救命効果の向上が期待されています。そこで、AEDの取扱いも含め、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進します。		
コスト	事業費	24年度執行額 11,906 千円	25年度当初予算額 1,991 千円
	人件費	(事業費備考) 目安の金額 20,313 千円 課長 0.13 人 係長 0.50 人 職員 1.85 人 (人件費備考)	
事業手法	■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 突然の病気や怪我等により傷病者が発生した場合に、傷病者のそばにいる市民が適切な応急手当を行うことで、傷病者の救命効果は向上します。また、AEDの使用が一般的にも認められたことにより、さらに市民の応急手当による救命効果の向上が期待されています。そこで、AEDの取扱いも含め、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進します。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	応急手当講習の受講者数	34,741 人	30,000 人	45,481 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	傷病者のそばにいる市民が適切な応急手当を行うことで救命効果は向上します。多くの市民にその知識・技術を学んでいただくことを目的としています。 (最終目標と目標年度)			151.6 %		
	(最終目標と目標年度)	%	大変順調			

活動計画	市民からの受講依頼に対し、講習を実施するとともに、市政だよりや市ホームページで啓発を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	講習の実施及び広報	実施	講習の実施及び広報	実施	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民からの受講依頼に対し、講習を実施するとともに、市政だよりや市ホームページで啓発を行います。			%		
	(最終目標と目標年度)	%	大変順調			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	個人で受講する講習では、毎回定員に達する応募があり、各消防署で実施する団体での講習を含め、目標値を上回る受講者数となっているため、大変順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	誤った知識・技術を指導してはならず、救急隊員をはじめとした消防職員での指導を行うためのコストの削減は困難です。しかし、消防団員及び救命ボランティアの会の皆様並びに応急手当普及員の積極的な協力(平日・土日祝日を問わず、講習のアシスタントを担ってくれる)により人件費の削減に寄与しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	警防課
課長名	梶嶋

事業名	児童見守り消防隊				施策番号	
					II - 1 - (3) - ①	
事業概要	児童が登下校時等に犯罪に巻き込まれないよう、関係機関と連携し、安全確保を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.01人 係長 0.01人 職員 0.05人
	0 千円	0 千円		590 千円		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	児童が登下校時等に犯罪に巻き込まれないよう、関係機関と連携し、安全確保を行います。具体的には、児童の登下校時に声掛けをしたり、業務出向時に通学路のパトロールを実施します。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、パトロールを通じ、地域住民との信頼関係の構築を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	関係機関と連携した児童の安全確保	実施	児童の安全確保	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	児童が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう、関係機関と連携し、安全確保を行います。また、救急事案への対応時に児童虐待が疑われる時には、児童虐待に関する子ども相談センターへの通報を実施します。 (最終目標と目標年度)児童の安全確保			%		大変順調	
	(最終目標と目標年度)	%					

活動計画	児童が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう、通常業務に支障のない範囲で積極的に市内全小学校区での「児童見守りパトロール」を実施します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	市内全小学校区での「児童見守りパトロール」の実施件数	2,142 件	3,000 件	3,397 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	児童が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう通学路等のパトロールを実施します。目標値については、年間登校日数約200日×登下校2回×7区に各区の実情を加味した数値としています。			113.2 %		大変順調	
	(最終目標と目標年度)	%					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	目標とするパトロールの実施件数を達成しているため、大変順調と判断しました。当事業の実施成果を数値で計ることは困難ですが、地域で消防車が巡回するだけでも、犯罪に対する抑止効果、児童犯罪の防止につながり、こういった地域に密着した地道な取り組みを継続することで、地域住民との間に信頼関係が築かれるものと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	消防隊の業務出向時等の通常勤務の合間で実施する事業であるので、コストを必要とせず効率的であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	警防課
課長名	松本

事業名	自主防災組織(市民防災会)				施策番号	
					II - 1 - (4) - ①	
事業概要	地域防災力の向上を目的に自主防災組織「市民防災会」の育成指導を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	6,700 千円	6,596 千円			5,800 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	各区で実施している防災訓練、防災講演会等の市民防災推進行事への参加により自主防災の意識付け、地域防災力の向上を図ります。 現在、市内全域の校区・地区(194校区・地区)に設置されており、維持・継続します。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、訓練や地域とのつながりを通し、災害予防や有事の際に即応できる状態を目指します。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	地域防災力の向上 自治会すべてに結成されている市民防災会を維持・継続し、地域防災力の向上を図ります。 (最終目標と目標年度)	-	地域防災力の向上	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調

活動計画	防災訓練、防災講演会などの市民防災推進行事への参加 すべての市民防災会(194校区・地区)が、防災訓練、防災講演会などの市民防災推進行事に1回以上参加することにより、自主防災の意識づけ、地域防災力の向上を図っていきます。			活動実績	市民防災推進行事への参加	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	各市民防災会の市民防災推進行事への年間参加回数 全ての市民防災会(194校区・地区)が年間1回以上の参加を目標としています。	194 回	194 回	194 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	全ての市民防災会が、防災訓練、防災講演会などの市民防災行事に1回以上参加することにより、自主防災の意識付け、地域防災力の向上を図れたものと考え、順調と判断します。 しかし、市民防災会の結成率及び訓練等の活動並びに参加人数等、定着しているものの、年齢構成にばらつきがないことや参加者が常に同一人物になるなどの課題があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	毎年、必要経費の見直しを図っており、経済的・効率的に事業を推進しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	警防課
課長名	柁嶋

事業名	魅力ある消防団づくり				施策番号					
					II - 1 - (4) - ②					
事業概要	消防団が活動しやすい環境づくりを行い、魅力ある消防団づくりを行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
						24年度執行額 25年度当初予算額 (事業費備考) 0 千円 0 千円	人件費 目安の金額 課長 0.20人 係長 1.00人 職員 2.00人 (人件費備考)			
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20人	係長 1.00人	職員 2.00人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を) どのような状態にしたいのか	消防団が活動しやすい環境づくりを行い、消防団活動のより一層の充実を図ることで、地域の防災力を高め、また、その活動内容を市民へ周知することで消防団の認知度を高め、魅力ある消防団づくりに繋げていくことを目指します。				成果実績	下記、「代表的な成果指標」のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	消防団員充足率		96.3 %	95.0 %	95.8 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	消防団の魅力と消防団員充足率は比例するものと考え設定しました。全国平均を大きく上回る、充足率95%以上の維持を目標として設定します。 (最終目標と目標年度) 充足率 95% 以上の維持				100.8 %					
	(最終目標と目標年度)				%		大変順調			
				%						

活動計画	消防団員意見検討委員会の検討結果を踏まえ、改善すべき事業に優先順位をつけ、実施していきます。				活動実績	下記、「活動指標」のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	消防団員意見検討委員会の年間開催回数		1 回	1 回	1 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	消防団員から意見を幅広く汲み上げ、消防団の活動環境の改善を図るため、消防団員意見検討委員会の年1回開催を継続実施していきます。				100.0 %					
	(最終目標と目標年度)				%		大変順調			
				%						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果指標、活動指標共に目標を達成しており、いずれも大変順調です。消防団員の意見をうまく反映させる体制も徐々に構築できており、その結果、「魅力ある消防団づくり」に繋がっていると考えます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	通常の予算計上の中から改善できるものを実施しており、最低限のコストで事業を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	警防課
課長名	梶嶋

事業名	消防団施設整備				施策番号	
					II - 1 - (4) - ②	
事業概要	消防団活動の拠点となる消防団施設(分団本部・分団支部)については、老朽・狭隘化が著しく、また、地域防災コミュニティーセンターとして十分な機能を有していないものが多数存在していることから、これらを整備し、消防団の機能強化を図るものです。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03人
	4,979 千円	76,963 千円			5,470 千円	係長 0.10人 職員 0.55人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	消防団施設は、地域防災の要である消防団の活動拠点です。その中でも、老朽化等により、移転や新築が必要な施設の整備を行うため、新築移転先を確保し、新築工事を行います。			成果実績	平成24年度中の竣工には至りませんでした。が、新築移転先が決定し、測量及び新築設計等まで完了しました。
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	消防団施設整備による地域防災力の向上					
	地域防災の要である消防団施設の整備により防災力が強化された状態を目指します。(消防団施設95施設中、46施設が未耐震施設であるため、耐震化率100%を目指します。) (最終目標と目標年度)	1 施設 八幡西第2分団建築	地域防災力の向上	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック やや遅れ

活動計画	予算のコストを抑えるために、極力市の未利用地や地域が持つ共有地等の中から消防団施設の選定を行い、耐震基準に満たない施設から早期に新築工事を実施していきます。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	消防団施設新築候補地の検討					
	消防団施設を適地で新築するため、候補地を検討します。	実施	候補地検討	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック やや遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H24年度は消防分団本部1施設の移転新築を計画していましたが、1施設については移転先を決定するまでに、各関係機関との調整に時間を要したため、完成には至りませんでした。しかし、移転先を決定させ、新築工事に必要な敷地測量、新築工事設計及び地質調査はスムーズに実施できましたので、成果及び活動状況については「やや遅れ」となりました。H25年度中には竣工できるような事務を進めています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	狭隘、老朽または耐震基準を満たしていない消防団施設の管轄にある未利用地を、優先的にかつ移用するなど、最低限のコストで実施しています。 また、各委託契約にしても、適正な契約事務を行っており、コスト削減の余地はありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局
		担当課	人事課
		課長名	小清水
事業名	消防署所の適正配置		
	II - 1 - (4) - ②		
事業概要	人口動態及び都市構造の変化、災害の大規模化など、消防を取り巻く環境の変化に対応した消防力(消防署所の開設や消防隊の配置)を整備します。また、市民サービスの公平性の観点から、消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用等を推進します。		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)
	146,550 千円	678,000 千円	
	目安の金額	課長	0.05 人
	10,075 千円	係長	0.50 人
		職員	0.60 人
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 (人件費備考)		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	消防を取り巻く環境の変化に対応した消防力を整備し、効率・効果的な部隊運用等を推進することで、北九州市の「安全・安心なまちづくり」を目指します。		成果実績	当事業の成果を毎年度数値で検証することは困難ですが、消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用等を推進することで、北九州市の「安全・安心なまちづくり」を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消防力の向上	-	単年度目標設定なし	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用等を推進することで、北九州市の「安全・安心なまちづくり」を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	順調	
					%	やや遅れ
	(最終目標と目標年度)			%	遅れ	順調

活動計画	【小倉北消防署】 H25 建築工事、竣工 【八幡東消防署】 H26 実施設計 【八幡西消防署】 H27 候補地の検討・予算要求 【門司消防署】 候補地の検討・予算要求	候補地の検討・地質調査 基本設計、地質調査 実施設計	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消防署所移転候補地検討	八幡東消防署移転候補地選定	八幡西消防署移転候補地の検討	八幡西消防署移転候補地の検討	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	消防署を適地に移転新築するため、必要な事項について検討し、移転候補地を検討します。			%	順調	
	署所整備に係る事業着手	小倉北消防署: 基本・実施設計 八幡東消防署: 予算要求	小倉北消防署: 建築工事 八幡東消防署: 基本設計、地質調査	小倉北消防署: 建築工事 八幡東消防署: 基本設計、地質調査	%	やや遅れ
市の財政状況等を考慮しながら、早期に事業着手が可能なものから早急に整備等を進めます。				%	遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	八幡東消防署の移転用地を決定し、基本設計・地質調査を実施しましたが、八幡西消防署は移転候補地の検討を継続しているため、順調としました。 地域の防災拠点として、市民の安全・安心を守るために必要な事業であり、庁舎の耐震性の観点からも、早期に事業着手が可能と判断したものを早急に進めていく必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	必要最小限の人数で対応しており、また事業に係る経費についても適正な契約事務を行っているため、これ以上の削減の余地はありません。 外部機関に必要な調査・検証等を委託することで、効率的な事業推進を図っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局
		担当課	警防課
		課長名	柁嶋
事業名	地区安全担当制度		
	II - 1 - (4) - ②		
事業概要	市民の防災に関する関心と参画意識を高め、消防と地域住民が一体となった消防行政を展開することにより、安全安心の提供と市民に信頼される消防に取り組むものです。		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)
	0 千円	0 千円	
	人件費	目安の金額	課長 0.01人 係長 0.01人 職員 0.05人
		590 千円	(人件費備考)
			<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民の防災に関する関心と参画意識を高め、消防と地域住民が一体となった消防行政を展開することにより、安全安心の提供と市民に信頼される消防に取り組むものです。 具体的には、地域の防災訓練の指導や、地域会議に参加して地域住民との意見交換を行うなど、地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築を行う事業です。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、当事業を推進することで、地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築 地域の防災訓練の指導や校区(地区)まちづくり協議会の定例会議へ参加するなど、市民生活の安全を守るための地域防災対策を実施します。 (最終目標と目標年度)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	(最終目標と目標年度)	-	地域に根付いた総合的な消防防災体制の構築	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調

活動計画	市内全域を小学校区又は自治会単位に区分し、108隊の各消防隊がそれぞれの地域を担当し、市民防災会などの自主防災組織の育成指導、高齢者等の災害弱者対策及び市民生活の安全を守るための地域防災対策(防災啓発行事、放火防止対策、夜間駐車対策等)等を実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 市民生活の安全を守るための地域防災対策の実施件数 市内全域を小学校区又は自治会単位に区分し、108隊の各消防隊がそれぞれの地域を担当し、市民防災会などの自主防災組織の育成指導、高齢者等の災害弱者対策及び市民生活の安全を守るための地域防災対策(防災啓発行事、放火防止対策、夜間駐車対策等)等を、1事業1件として実施します。 各隊1日1件(35隊/1日) + 毎月の地域会合出席を目標値の設定根拠としています。	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
		9,417 件	15,000 件	14,323 件 95.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 消防隊の通常勤務の範囲内で実施していますが、概ね目標を達成することができたため、順調と判断しました。地域住民や地域企業との信頼関係が築かれつつあり、市民の防災に関する意識が高まっていると感じられることから、事業目的としては有効な活動であり、概ね計画通り事業が推進されていると考えます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 各消防署の職員により、通常業務の範囲内で実施しておりコストが発生しません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	予防課
課長名	尾花

事業名	住宅防火対策				施策番号	
					II - 1 - (4) - ②	
事業概要	地域防災ネットワークにより、福祉関係者・地域住民等からのあらゆる情報を活用し、高齢者・障害者等の訪問活動を行い、防火・防災啓発の普及を図るとともに、火災及び焼死事故等の防止に努める。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.80人
	1,310 千円	1,382 千円			24,700 千円	係長 0.80人 職員 1.00人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 住宅火災での高齢者・障害者等の死亡率が高いことから、消防隊が高齢者宅等を訪問して防火指導等や、住宅用火災警報器の設置促進を図り、火災及び焼死事故等の低減と出火危険の排除を目指す。			成果実績	成果の状況は下記の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	住宅用火災警報器の普及率	80.9 %	全国水準を上回る普及率	89.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	普及率の目標設定については、秋(11月)、春(3月)の火災予防運動期間中に市民を対象にアンケートを実施し、11月から3月の増加率で月平均を割り出し算出しています。 (最終目標と目標年度) 全国水準を上回る水準(毎年度)			%		
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

活動計画	消防隊が高齢者・障害者等の住宅を訪問し、防火指導を行うとともに、火災及び焼死事故等の防止を図ります。 住宅用火災警報器設置の必要性について、各種媒体やイベント等あらゆる機会を通して広報を行い、全ての住宅に住宅用火災警報器の設置を図ります。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	住宅防火訪問件数	2,837 件	3,000 件	3,532 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	住宅防火訪問件数の目標値設定については、一消防隊あたり概ね30件で市内108件隊が訪問した場合で算出しています。			117.7 %		
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	住宅用火災警報器の普及啓発については、秋・春の火災予防運動期間中に「住宅用火災警報器設置促進キャンペーン」と位置づけ、訓練演習等での広報、テレビ・ラジオ等マスメディアを通じた広報活動及びラッピングバスによる広報等、様々な広報活動を実施した結果、全国水準77.5%(H24年6月)を上回る普及率となり、施策実現の効果があったものと考えられるため、大変順調と判断しました。 また、住宅防火訪問件数についても、目標値を大幅に上回っており、大変順調であると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	あらゆる機会を捉えた広報活動の実施及び広報物の種類・発行数等の見直しを行うことで事業費の削減と、経済性及び効率性の向上が図られました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	総務課
課長名	内藤

事業名	消防通信指令システムの充実・強化				施策番号	
					II - 1 - (4) - ②	
事業概要	H14年に運用開始し、老朽化した指令システムと、電波法改正により現行のアナログ方式からデジタル方式への移行が義務付けられた消防救急無線について、両者の更新のタイミングが合致したことから、消防通信指令システムとして一括的に更新し、導入費用の低減及びシステムの機能向上・安定稼働を図ります。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20人
	309 千円	0 千円			17,300 千円	係長 0.60人 職員 1.20人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	消防通信指令システムは、消防指令システムと消防救急デジタル無線を合わせたシステムであり、操作性の向上、障害発生率の低下、情報伝達の迅速化等、確実な災害対応を可能にするため、指令センターと現場指揮本部等が災害情報をより円滑に共有できるシステムの構築を行います。	成果実績	当事業の成果の検証を毎年度数値で検証することは困難ですが、システムの強化は不可欠であり、事業を計画的に進めることで成果が上がるものと判断します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消防通信指令システムの運用	—	消防通信指令システム構築に向けた承諾函書の完成	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	現消防指令システムの更新と消防救急無線のデジタル方式への移行を、H27年度までに計画的・一体的に行います。 (最終目標と目標年度) 消防通信指令システムの運用 (H27年度)			%		
(最終目標と目標年度)				%		大変順調

活動計画	消防通信指令システムのシステム仕様の承諾図書完成を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消防通信指令システム構築の進捗率	—	30 %	30 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	H27年度の運用開始に向け、事業の進捗率を指標として設定しました。			100.0 %		
				%		大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H27年度の消防通信指令システムの運用に向けた事業が、工程表に基づき順調に進んでいるため、大変順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	現消防指令システムの更新と消防救急無線のデジタル方式への移行を一体的に行うことで、効率化及び導入費用の低減化を図ります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	警防課
課長名	梶嶋

事業名	特殊災害対策の強化					施策番号 II - 1 - (4) - ②
事業概要	大規模自然災害、NBC災害等の多種多様にわたる災害において、人命救助活動に必要な資器材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 人
	6,269 千円	5,391 千円			3,750 千円	係長 人 職員 0.50 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	大規模自然災害、NBC災害等の多種多様にわたる災害において、人命救助活動に必要な資器材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。			成果実績	当事業の成果の検証を毎年度、数値で検証することは困難ですが、訓練等を通じて、災害発生時に即応できる能力の向上が図られていると考えます。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	災害対応能力の向上	向上	向上	向上	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	災害対応能力の向上を数値で示すことは困難ですが、代替の指標を設定するなどの検討を進めます。			%		
(最終目標と目標年度)				%		大変順調

活動計画	大規模自然災害、NBC災害等の特殊災害における人命救助活動に必要な資器材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。				活動実績	下記活動実績のほか、救急救助技術発表会等
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	特殊災害対応訓練の実施	3 回	3 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	消防機関の訓練以外に、関係機関(警察、医療機関、海上保安庁)と合同で訓練することにより、災害発生時に関係機関とスムーズに連携を図ります。 ※ NBC災害訓練、水難事故対応訓練、集団救急救助訓練(各1回)			100.0 %		
救助資器材の整備	電磁波探査装置の配備	電動油圧救助器具及びマット型空気ジャッキの配置		%		大変順調
	要救助者の苦痛軽減や症状の悪化防止及び迅速な救助救出活動に効果的な資器材を整備し、災害対応能力の向上を図っていきます。					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	予定していた資器材を導入し、特殊災害対応型消防活動資器材の整備が図られました。また、予定通り訓練も実施でき、順調に災害対応力の向上が図られていると考えます。なお、消防以外の関係機関(警察、医療関係、海上保安庁)との連携強化を図る必要があります。
		資器材の整備は、同等資器材と比較し、性能・仕様の簡便さなどを考慮して効率的に事業を推進しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(26年度の成果目標)
---------------	-----------	--

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局	
		担当課	予防課	
		課長名	尾花	
事業名	緊急通報システム			
	施策番号 II - 2 - (1) - ③			
事業概要	高齢者や重度身体障害者がいる世帯の火災やガス漏れ、救急要請などの緊急通報を消防指令センターで直接受信し対応することにより、火災・救急による被害の低減を図るとともに、高齢者等が住み慣れた家庭で安心して生活できるよう支援します。			
コスト	事業費	24年度執行額 65,521 千円	25年度当初予算額 60,839 千円	(事業費備考)
	人件費	目安の金額 50,625 千円		課長 0.90人 係長 1.80人 職員 2.97人 (人件費備考)
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他			

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 高齢者等が住み慣れた家庭で安心して生活できることを目指します。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、緊急通報システム設置世帯への質の高い行政サービスを行うことで高齢者等の安全な生活が実現されていると考えます。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→
	高齢者等の安全な生活の実現 緊急通報システムの設置世帯数は、今後さらに増加していくと予想されます。設置世帯数の増加に対して、質の高い行政サービスを実現することで実施を図ります。 (最終目標と目標年度)行政サービスの維持・向上	高齢者等の安全な生活の実現	高齢者等の安全な生活の実現	高齢者等の安全な生活の実現 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	保健福祉局高齢者支援課及び各区役所保健福祉課と連携し、緊急通報システムの制度概要や使い方をわかりやすく説明したリーフレット等を作成・活用し、設置世帯や市民へ周知します。	活動実績	当事業の活動の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、緊急通報システムの行政サービス維持・向上を図るためのリーフレットを作成・配布等を行い、設置世帯や市民へ周知します。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→
	緊急通報システムの行政サービス維持・向上を図るためのリーフレット作成 保健福祉局高齢者支援課、消防局、各消防署、各区役所保健福祉課で、積極的にリーフレットの配布や説明等を実施し、行政サービスの維持・向上を図ります。	リーフレット作成・配布・説明	リーフレット作成・配布・説明	実施 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	保健福祉局高齢者支援課、消防局、各消防署、各区役所で実施しているリーフレットの配布・説明等の活動が充実しており、緊急通報システムについて設置世帯や市民へ周知できています。 このことは、近年の緊急通報システム設置世帯の増加に対して、行政サービスの維持・向上が図られているといえるため、成果の状況、活動の状況いずれも「大変順調」としました。 現在のシステムを運用開始して10年が経過したH16年度から、継続的に保守委託費などのランニングコスト削減に取組んできました。結果、市民へのサービス水準を維持しつつ、年度事業費の最高額から約半減を達成しました。よって、費用対効果の面からみても適当だと考えます。
-----------	---	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	消防局
		担当課	警防課
		課長名	柁嶋
事業名	いきいき安心訪問		
	施策番号 II - 2 - (1) - ③		
事業概要	女性消防団員が2人1組となって、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火防災に関する指導や、家庭内救急事故の予防指導等を実施します。 なお、ほとんどの女性消防団員が「介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)」の資格を有しています。 また、訪問の際に緊急通報システムの設置等も紹介し、有事の際に迅速に対応できるようにしています。		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	目安の金額
	8,302 千円	8,806 千円	課長 0.01人 係長 0.05人 職員 0.05人 (人件費備考)
事業費	事業費備考 ()		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	女性消防団員が2人1組となって、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火防災に関する指導や、家庭内救急事故の予防指導等を実施することで、火災や重大な事故の発生を未然に防ぐことを目的としています。		成果実績	成果を数値で示すことは困難ですが、訪問先の多くの高齢者に感謝されていると考えています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	火災や重大事故の未然防止	-	火災や重大事故の未然防止	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火防災に関する指導や、家庭内救急事故の予防指導等を実施することで、火災や重大事故の発生を未然に防ぐことを目指します。 (最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

活動計画	女性消防団員により、年間2,464世帯の訪問を行う。			活動実績	下記、「活動指標」のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	女性消防団員による防火訪問	実施	実施	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)の資格を持った女性消防団員が福祉要素を取り入れた防火訪問を行う。			%		
	いきいき安心訪問年間訪問世帯数	2,562 世帯	2,464 世帯	2,552 世帯	大変順調	
現在定められている女性消防団員の定数(154名)で訪問可能な最大数を目標として実施しています。	103.6 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	年間の訪問世帯数は、あくまでも目標数であり、女性消防団員の条例定数を参考に設定しています。そのため、在籍団員数が定員に満たないと訪問数が減少します。また、消防団員は、他に本職を持っているため、目標数を達成できないこともあります。そのような中、H23・24年度と目標値を大きく越える実績を残すことが出来たため、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果で)の分析 ※民間活力導入の視点	女性消防団員のほとんどが「介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)」及び「応急手当普及員」の資格を持っています。同等以上の資格を有する者のサービスをより安価に受けるのは困難です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	訓練研修センター
課長名	中村
施策番号	
II - 3 - (4) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業名	アジアの消防リーダーとしての国際協力				
事業概要	アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州市消防局の消火に関する技術移転を行います。				
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	0 千円	6 千円			10,000 千円
				課長	0.40 人
				係長	0.80 人
				職員	0.80 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 本市消防局は、長年にわたりJICA研修「消火技術」をはじめ様々な国際協力事業で培ってきたノウハウを有しています。これを活かし、国際協力機構(JICA)との連携において、アジア地域を中心に本市の消火技術を移転し、更なる国際協力・交流を推進していきます。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	アジア地域からの研修員受け入れ継続	9 人	アジア地域からの研修員受け入れ	2 人	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	継続的に技術支援を行うことが、国際協力の推進につながります。アジア地域からの研修員を受け入れることを目標基準として、事業を推進していきます。 (最終目標と目標年度) アジア地域からの研修員受け入れ			%		
					やや遅れ	大変順調
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	JICA研修「消火技術」において、アジア地域から研修員を受け入れます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消火技術研修等のJICA事業におけるアジア地域からの参加人数	1 人	消火技術研修等のJICA事業におけるアジア地域からの参加人数	2 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	アジア諸国からの希望者を優先的に選考し、参加者数の確保を図ります。			%		
					やや遅れ	大変順調
			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H24年度は、アジア地域から2人の研修員を受け入れたため、大変順調であると判断しました。JICA研修「消火技術」は、世界各国に参加を呼びかけるため、参加者数が毎年度流動的なのが現状ですが、アジア地域への研修参加の呼びかけ等を国際協力事業(JICA)と十分に連携して行っています。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	研修費用の大部分は、国際協力機構(JICA)の関係機関が負担しており、最小経費での受け入れが実施されていると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	人事課
課長名	小清水

事業名	消防音楽隊による文化活動				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ③	
事業概要	市主催の式典や消防の各種行事に出演し、市民参加向上の役割を担うとともに、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、市のPR活動や防火・防災啓発活動を実施します。併せて、幼少年の健全な育成等に寄与することを目的に、教育機関と連携し、積極的に幼少年教育に貢献します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	8,277 千円	7,507 千円			4,800 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市主催の式典や消防の各種行事に出演し、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、市のPR活動や防火・防災普及啓発活動を実施します。併せて、幼少年の健全な育成等に寄与することを目的に、教育機関と連携し、積極的に幼少年教育(消防“夢”コンサートの開催)に貢献します。				成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】		
	防火・防災普及啓発			-	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、防火・防災の普及啓発を図ります。 (最終目標と目標年度)		単年度目標設定なし	%				
	消防音楽隊出演回数	147 回	150 回	165 回	やや遅れ 遅れ	大変順調		
訓練日数の確保等から年間150回程度の出演が適切であると考えます。公演内容を工夫することなどにより依頼数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度) 毎年度150回程度			%					

活動計画	警察音楽隊は、県下全域の出演を担当し多忙であることから、警察音楽隊の負担とならぬよう、日程調整を密に行っています。毎月18日に警察音楽隊が北九州市で行う安全安心コンサートで共演の予定です。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】		
	警察音楽隊との合同演奏	2 回	2 回	2 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	安全・安心を担う二つの組織が連携し、音楽を通じて「安全・安心」を市民にPRします。両音楽隊ともに出演多忙であること、他の行事とのバランス等を考慮し、年2回の合同開催を目標としています。			100.0 %				
	ホームページアクセス件数	27,263 件	8,000 件	36,448 件	やや遅れ 遅れ	大変順調		
市民に活動内容等を知ってもらうことで、知名度が上がり、出演依頼の増加に繋がると考えられます。積極的に更新し、見てもらえるホームページ作成を心がけます。			455.6 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果・活動ともに目標を達成しており、ホームページのアクセス件数は目標を大きく上回り年々増加していることから、音楽隊の活動について市民の関心は高いと判断でき、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	消耗品等の購入は必要最小限に抑えており、出演は無償のため、これ以上の削減の余地はありません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	消防局
担当課	訓練研修センター
課長名	中村
施策番号	
VII - 1 - (3) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	()

事業名	アジアの消防リーダーとしての国際協力				
事業概要	アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州市消防局の消火に関する技術移転を行います。				
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	0 千円	6 千円		10,000 千円	課長 0.40 人 係長 0.40 人 職員 0.80 人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 本市消防局は、長年にわたりJICA研修「消火技術」をはじめ様々な国際協力事業で培ってきたノウハウを有しています。これを活かし、国際協力機構(JICA)との連携において、アジア地域を中心に本市の消火技術を移転し、更なる国際協力・交流を推進していきます。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	アジア地域からの研修員受け入れ継続	9 人	アジア地域からの研修員受け入れ	2 人	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	継続的に技術支援を行うことが、国際協力の推進につながります。アジア地域からの研修員を受け入れることを目標基準として、事業を推進していきます。 (最終目標と目標年度) アジア地域からの研修員受け入れ			%		
				%	やや遅れ	大変順調
(最終目標と目標年度)			%	遅れ		

活動計画	JICA研修「消火技術」において、アジア地域から研修員を受け入れます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消火技術研修等のJICA事業におけるアジア地域からの参加人数	1 人	消火技術研修等のJICA事業におけるアジア地域からの参加人数	2 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	アジア諸国からの希望者を優先的に選考し、参加者数の確保を図ります。			%		
				%	やや遅れ	大変順調
			%	遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H24年度は、アジア地域から2人の研修員を受け入れたため、大変順調であると判断しました。JICA研修「消火技術」は、世界各国に参加を呼びかけるため、参加者数が毎年度流動的なのが現状ですが、アジア地域への研修参加の呼びかけ等を国際協力事業(JICA)と十分に連携して行っています。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	研修費用の大部分は、国際協力機構(JICA)の関係機関が負担しており、最小経費での受け入れが実施されていると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(26年度の成果目標)
--------	----	--